

2026 年 7 月 13 日

PFAS 分析機関 各位

一般社団法人 日本環境測定分析協会  
極微量物質研究会 研究開発 WG

## 第 5 回 水質中 PFAS クロスチェックの実施について

拝啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、「水質中 PFAS クロスチェック」のご案内をお送りいたします。

有機フッ素化合物(Per- and Polyfluoroalkyl Substances:PFAS)は、界面活性剤に属する化合物であり、1950 年以降、工業用途を中心に広く利用されてきました。現在では、日常生活や産業活動に欠かせない存在となっています。しかし、PFAS はその化学的特性から環境中で長期間残留する性質を持ち、生体への影響が報告されているほか、さまざまな環境媒体から検出されることが問題視されています。このため、PFAS の自主的削減が進められてきました。

規制状況について、2009 年 5 月には PFOS (パーフルオロオクタンスルホン酸)がストックホルム条約(POPs 条約)の規制対象物質となり、2019 年 5 月には PFOA (パーフルオロオクタン酸)が追加されました。国内では、2024 年 6 月に内閣府食品安全委員会が耐容一日摂取量(TDI)を 20ng/kg 体重/日に設定したことを受け、環境省は 2025 年 5 月 8 日に「水質汚濁に係る人の健康保護に関する環境基準等の見直しについて」を公表しました。この中で、要監視項目として PFOS および PFOA の指針値が「PFOS および PFOA の合計値で 0.00005mg/L 以下」に設定されました。また、水道水については水質管理目標設定項目が水質基準項目に見直され、同様の基準値が設定され、2026 年 4 月 1 日から施行されています。

さらに、米国環境保護庁(EPA)は 2024 年 4 月 10 日に飲料水中の PFAS 規制案を発表しました。具体的には、「PFOS」と「PFOA」の基準値をそれぞれ 4ng/L、「PFNA」「PFHxS」「HFPO-DA (GenX)」の基準値をそれぞれ 10ng/L とする提案がなされています。これらの動向は、今後の日本の基準見直しにも影響を与える可能性があります。

PFAS 分析は、LC-MS(液体クロマトグラフィー質量分析計)など高度な測定機器を必要とするため、分析の難易度が高い分野です。一方で、これまで自身の分析技術を客観的に評価する機会は限られており、本委員会によるクロスチェックや 2022 年度の環境測定分析統一精度管理調査を通じてのみ可能でした。UTA 研セミナーのアンケートでも、クロスチェックの実施を希望する声が多く寄せられています。

そこで、極微量物質研究会では昨年度に引き続き、「第 5 回 水質中 PFAS クロスチェック」を企画いたしました。PFAS 分析を実施されている分析機関の皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

敬具

## 第5回 水質中 PFAS クロスチェック実施要領

一般社団法人 日本環境測定分析協会  
極微量物質研究会 研究開発 WG

### 1. 分析対象物質

PFOS 及び PFOA、それぞれ直鎖及び分岐鎖、PFHxS

### 2. 分析方法

特に定めないが、以下の方法が公表されている。

- ・ JIS K 0450-70-10 工業用水・工場排水中のペルフルオロオクタンスルホン酸及びペルフルオロオクタン酸試験方法
- ・『水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準等の施行等について』付表 1 に示す方法
- ・水質管理目標設定項目の検査方法（平成 15 年 10 月 10 日付健水発 1010001 号）厚生労働省医薬・生活衛生局水道課

### 3. 配付試料

- ① 水質-1（環境試料をろ過、希釈したもの：約 200ml を各 2 本）
- ② 水質-2（環境試料をろ過、希釈したもの：約 200ml を各 2 本）

PFAS 含有レベル：PFOS、PFOA 及び PFHxS のそれぞれ直鎖、分岐鎖の合計

- ① 水質-1：1.0 ～ 100 ng/L
- ② 水質-2：5.0 ～ 200 ng/L

※今年度試料の PFOA 分岐鎖体は比較的低濃度です。

### 4. スケジュール

申し込み 2026 年 7 月 13 日（月）から 2026 年 8 月 7 日（金）

試料配付 2026 年 9 月 1 日（火）を予定

報告期限 2026 年 11 月 6 日（金）まで

### 5. 参加費用（税込価格） 参加者には参加証を発行します

| 種別           | 参加費用     |
|--------------|----------|
| 極微量物質研究会会員   | 25,000 円 |
| 日本環境測定分析協会会員 | 65,000 円 |
| 一般（会員外）      | 85,000 円 |

参加費用は振込みにてお支払いをお願いいたします。

「請求書」は申込後に自動送信される「申込完了のお知らせメール」文中に記載の URL

からダウンロード発行となります（紙面の送付はございません）。

請求書に記載の銀行口座・振込期限をご確認の上お振込みください（振込期限は2026年8月18日となります。期限内の日付にてご予約頂き、お申込みの際にご記入いただきます）。手数料は参加機関様でご負担いただきますようお願いいたします。

なお、参加申し込み時に日本環境測定分析協会会員が極微量物質研究会会員に申し込まれる機関様については、極微量物質研究会会員の参加費で参加できます。

#### 申込方法

日環協ホームページの UTA 研新着揭示の下記 URL より、受付システム（Web）にてお申し込みください。

「第5回 水質中 PFAS クロスチェック」ご案内のページ

<https://www.jemca.or.jp/2026/07/39366/>

申込完了後に「申込完了のお知らせ」メールが自動送信されます（自動送信メールが不着の際は、まずは迷惑メールフォルダへの振り分けをご確認いただき、なおご不明の場合、事務局にご連絡願います）。

#### 6. 実施方法

- ① 分析は、各々独立にはかり取った 1 試料について実施する。
- ② 測定回数は各 1 回とする。
- ③ 分析対象は PFOS、PFOA のそれぞれ直鎖及び分岐鎖とその合計、PFHxS 直鎖の計 6 データとする。
- ④ 要求下限値は特に定めないが、定量下限値以下の場合は統計処理から除くため、報告下限値は可能な限り小さい値を設定すること。
- ⑤ 報告値の桁数は、統計処理上から有効数字 4 桁目を四捨五入して 3 桁とする。

#### 7. 結果報告

分析結果は、報告様式をダウンロード頂きご記載のうえ、PDF 等に変換せずエクセル形式のまま、2026 年 11 月 6 日（金）までにホームページ上でアップロードしてください。

様式は、上記のご案内ページに、試料配付時期の前後に揭示いたします。

なお、2026 年度第 2 回極微量物質研究会セミナー（2027 年 2 月 2 日（火）開催予定）、ならびに第 34 回環境化学討論会（2027 年 6 月開催予定）に解析結果を報告する予定です。報告は分析結果と参加機関の関連付けが特定されない統計値の形で行います。参加機関名が一覧の形式で公表されること、解析結果の公表が行われることを予めご了承の上、参加申込みいただきますようお願いいたします。

また、日環協正会員（UTA 研非会員を含む）の報告試験所の都道府県、会社名、事業所名を、日環協ウェブサイトで公開いたします。お申込時に、公開・非公開を選択可能です。

8. 連絡先： 一般社団法人 日本環境測定分析協会 極微量物質研究会事務局  
〒134-0084 東京都江戸川区東葛西 2-3-4 JEMCA ビル  
E-mail : gokubiken76@jemca.or.jp